

安平の炭鉄港ストーリー

安平町内の追分地区は、1892(明治25)年に北海道炭礦鉄道の岩見沢駅～室蘭駅間が開業したと同時に、追分駅構内に「追分機関庫」が設置されて以来、長らく鉄道の要衝として発展してきました。室蘭本線と夕張線(現・石勝線)の合流点だったため空知地方や夕張から採掘された石炭を室蘭方面に運ぶ拠点として、多い時は60台以上の機関車が配置されるなど、道内では5本の指に入るほどの大きな機関区でした。

1975(昭和50)年12月14日に、室蘭～岩見沢間を日本最後のSLによる定期旅客運行列車が運行。同年12月24日に、追分～夕張間をSLさよなら貨物列車が運行されたのを最後に、すべての国鉄本線からSLが姿を消し、引退しました。1992(平成4)年には運転士が追分駅に編入、2005(平成17)年には岩見沢運転所へ再編入され、追分は運転拠点としての使命も終わりました。

その後、2019(平成31)年に鉄道資料館を併設した「道の駅あびら D51 ステーション」がオープン。蒸気機関車「D51 320 号機」や鉄道関連資料が展示されました。安平町追分 SL 保存協力会により整備、保存されている「D51 320 号機」は全国でも屈指の美観を誇っており、地域の手によって鉄道の歴史が後世に受け継がれています。



炭鉄港

ABIRA 安平 歴史をめぐる旅物語



日本遺産とは



JAPAN HERITAGE
日本遺産

「日本遺産(Japan Heritage)」は地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

【本邦国策を北海道に観よ!~北の産業革命「炭鉄港」~】は令和元年度日本遺産に認定されました。

日本遺産ポータルサイト <https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/>

豊かな自然と優れたアクセスに恵まれたまち

安平町は、2006(平成18)年に軽種馬生産地と酪農の里として有名な旧早来町と、アサヒメロンや鉄道の要衝として発展した旧追分町が合併して誕生した町で、北海道の南西部に位置し、北は由仁町、東は厚真町、南は苫小牧市、西は千歳市とそれぞれ接しています。札幌市から直線約50km、新千歳空港からは約14kmの位置にあり、町内にはJR石勝線と室蘭本線が通るほか、道東自動車道のインターチェンジもあり、交通の利便性に恵まれています。豊かな自然の中、基幹産業として稲作、畑作、酪農、畜産、軽種馬と多種多様な農業が展開されています。

【札幌から】

車：約1時間20分(道央自動車道経由)
JR：約1時間40分(千歳線→石勝線)

【新千歳空港から】

車：約30分(国道36号経由)
JR：約1時間(千歳線→石勝線)

【旭川空港から】

車：約2時間50分(道央自動車道経由)
JR：約3時間40分(空港リムジンバス→函館本線→千歳線→石勝線)



制作：炭鉄港推進協議会(事務局：空知総合振興局地域創生部地域政策課)

〒068-8558 北海道岩見沢市8条西5丁目
電話番号：0126-20-0146 FAX 番号：0126-25-8144



炭鉄港 北の産業革命の物語
<http://www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/tantetsuko.htm>

歴史をめぐる旅物語

炭鉄港

安平



令和元年度文化資源活用事業費補助金(観光拠点整備事業)

パンフレット背景色は12市町それぞれの炭鉄港イメージカラーです 【安平：町のシンボルマーク】

北海道の近代化を支えた 三都を結ぶ物語

北海道の近代化は、1872(明治5)年、石造埠頭の建設が開始された小樽からスタートしました。その後、小樽が北海道のゲートウェイとして一段の飛躍を遂げる契機となったのは、1879(明治12)年、北海道初の近代炭鉱である官営幌内炭鉱(現在の三笠市幌内)の開鉱でした。

その石炭を運ぶための幌内鉄道は、北海道初の鉄道として、まずは1880(明治13)年に手宮(小樽)～札幌間が部分開通、1882(明治15)年には幌内

まで全通しました。幌内鉄道は、小樽港への石炭運搬だけでなく、北海道内陸部へ入植する人や収穫した農産物の輸送に活躍するとともに、人や物資の輸送円滑化を通じて道都札幌の発展も支えました。

1889(明治22)年、炭鉱と鉄道は元薩摩藩士の堀基が設立した北海道炭礦鉄道会社(北炭)に払い下げられ、同社によって空知炭鉱(歌志内)と夕張炭鉱(夕張)の開発が進められました。それに伴い、1892(明治25)年に室蘭まで鉄道が延長され、岩見沢が道央圏を東西南北に結ぶ鉄道の交点として、室蘭

が石炭積出港として発展する礎となりました。

1906(明治39)年には、鉄道が国有化されました。北炭は、その売却資金をもとに、英国企業2社との合併により、室蘭に日本製鋼所を設立。1909(明治42)年には製鉄へと進出し(輪西製鉄場:現在の日本製鉄室蘭製鉄所)、室蘭は鉄の街として不動の地位を確立しました。

一方、鉄道国有化によって北炭の独占輸送体制が崩れ、財閥各社は一斉に空知へ進出し、これを足がかりにして日露戦争で獲得した樺太へと勢力

を伸ばしました。このことが小樽港の一層の発展を促して、1914(大正3)年の小樽運河の開削へとつながっていきます。

空知・小樽・室蘭の三都を結ぶ鉄道は、全道の鉄道ネットワークの機軸となり、三都の基幹産業である石炭・港湾・鉄鋼は、北海道の産業化を先導してきたのです。

空から炭鉄港

あびらちょう
～安平町～
ABIRA TOWN

夕張市

厚真町

由仁町

瑞穂ダム



蒸気機関車 D51 320号機

追分ファーム

～徒歩で～
追分駅より13分
～自動車で～
追分町ICより3分
安平駅より10分

道の駅あびら
D51ステーション

追分駅

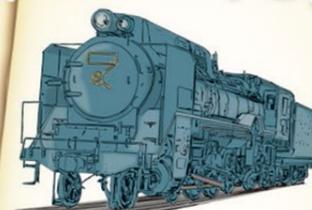
鹿公園

千歳市

安平トリビア

～鉄道の分岐のまち、追分～

アイヌ語由来の地名の多い北海道で、安平にある「追分」は「分岐」を意味する日本語です。追分という地名は全国各地にありますが、その由来は全て街道の分岐です。一方安平の追分は鉄道の分岐が起源で、それも開通数年前に夕張で石炭が見つかったために元の計画から路線をずらして分岐を設けました。こうして今の場所に追分があるのも、炭鉱と鉄道が起源となっているのです。



周辺部拡大図

この地図は空間情報データベース GISMAP を使用して作成した。この地図の作成に当たっては、国土院院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 令元情使第415-GISMAP42767号)

炭鉄港 グルメ

～チーズ～

1933年(昭和8年)、安平町内の遠浅地区で「北海道製酪販売組合連合会」によって日本で初めて大規模なチーズ製造が行われました。このことから、安平町は「チーズ専門工場発祥の地」と言われています。その後、工場は雪印乳業に変わりましたが、昭和60年に同社のチーズ部門が大樹工場に移るまで、この地は長らく国内の主要なチーズ生産基地の役割を果たしました。同地区は、古くから酪農を主要産業として栄えてきました。その象徴として、昭和初期には木製サイロが建てられました。このサイロでつくられたサイレージが豊かな牛乳を育て、その良質な生乳から美味しいチーズがつけられたのです。

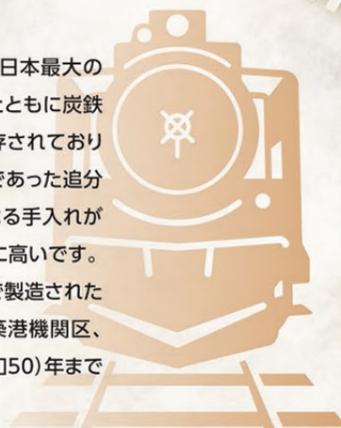
安平町では、このような歴史を礎に、現在でもカマンベールチーズをはじめとする質の高いチーズが町内の企業によって生産されています。



炭鉄港 構成文化財

～国鉄OBたちによる手入れが行き届いた貴重な1両～ 蒸気機関車 D51 320号機

貨物用テンダー式蒸気機関車で、同一形式としては日本最大の1,184両が製造されました。D51形機は9600形機とともに炭鉄港エリアでの石炭列車牽引機として活躍し各地で保存されておりますが、岩見沢第一機関区とならば石炭輸送の中核であった追分機関区が存在した地域性や、現在も国鉄OBたちによる手入れが続けられていることなどから、その歴史的価値は非常に高いです。当該機は、1939(昭和14)年に日立製作所笠戸工場で製造された後に北海道へ配備され、1970(昭和45)年に小樽築港機関区、1972(昭和47)年に追分機関区に転属し、1975(昭和50)年まで石炭輸送等にあたりました。



炭鉄港 女子の

大倉加奈さん

炭鉱が好きすぎて北海道赤平市に移住。NPO職員、フリーデザイナーとして活動中。

ココ見て! 炭鉄港

道の駅あびら D51ステーション

道の駅あびらD51ステーションは農畜産品や加工品などの特産品、地域の観光情報、歴史・文化情報等を集結させ、町内外の交流やつながりを生み出すことを目的として誕生しました。施設内には、テイクアウト、ペーカリー、特産品コーナーがあるほか、農産物直売所や鉄道資料館が併設され、SL等の列車も展示されています。安平町はチーズやアサヒメロンなど特産品も豊富で、丘陵地帯に広がる菜の花畑、夏に咲き誇るハスの花、雪だるま郵便局、SL、ゴルフ場etc...と多彩な魅力が満載です。

【開館時間】 9:00～18:00(4月～10月)
9:00～17:00(11月～3月)

【休館日】 12月31日～1月3日(駐車場および公衆トイレを除く)

※鉄道資料館は冬期閉館(11月～3月)

【入館料】 無料